

PCI 支援ツールとしての心臓 CT の活用

¹特定医療法人 慶桜会 東可児病院、²特定医療法人 慶桜会 東可児病院
池本 光佑¹、猿原 和典¹、玉置 紘也¹、松岡 義直¹、進 智康²

【背景】心臓 CT は撮影及び解析の最適化により、PCI の術前・術中戦略に不可欠な情報を多数取得できる。本検討では、当院における PCI 支援ツールとしての心臓 CT の活用を紹介する。【CT 撮影】希釈造影剤＋低管電圧撮影を主体としながら、患者の冠動脈の病態（石灰化、STENT の有無）や腎機能を考慮し、原液造影剤＋高管電圧撮影も用いている。その結果、石灰化や STENT による **Blooming Artifact** が抑制され、血管内腔の視認性が向上した。【解析】狭窄の有無だけでなく、病変形態の詳細を把握し、治療における最適なワーキングアングルの予測を行った。側枝の有意狭窄や、それらが病変部から分岐を伴う症例では冠動脈支配領域解析を施行し、責任病変の同定や側枝保護の必要性を判断する術前指標とした。また、**Slab MIP** を活用し、**IVUS Like Image** を取得することで、**IVUS** 解析の事前予測を行うことが出来た。これらの情報を、メディカルスタッフ間で共有することで、治療戦略に対する意識の統一を行うことが出来た。【治療中の活用】手技中はリファレンスモニターに必要な情報を常に提示して治療がスムーズに進むようサポートした。また、次に必要になる画像をあらかじめ常に先読みして提示した。【結語】当院では PCI に携わる技師が心臓 CT の撮影・解析を主導し、術前・術中ニーズに即した情報収集を徹底している。この体制により治療戦略の円滑化、透視時間の削減が可能となり、低侵襲なカテーテル治療に大きく貢献することが出来た。